

令和5年度 学校に関する自己点検・自己評価結果と今後の対策

3：あてはまる 2：ややあてはまる 1：あてはまらない

項目	評価項目	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見
教育理念・目的・目標	1. 教育理念・教育目的は、養成所の特徴を示し、学生の学習指針になっている。	2.94	2.88	2.85		
	2. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保證するために、どのような教育内容・方法・環境をとるのか述べている。	2.81	2.88			
	3. 教育理念・教育目的は学生の指針となり、卒業時点において、もつべき看護師の資質を保證するものとなっている。	2.87	2.75			
	4. 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性があり、具体的で実現可能なものとなっている。	2.88	2.88			
	5. 看護実践者として、成長を促す側面や卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標を設定している。	2.81	2.88			
<p><点検結果と今後の対策> カリキュラム改正時には話し合いを設けたことで理解を深めていけたが、実際にカリキュラムを始動し学生指導をしていく中で、学習指針として理解し教授活動に繋げることができていない部分が出てきていると考える。また、職員も入れ替わりがあり、周知できていない部分があると思われる。今後は年度初めにしっかりと周知していく必要がある。学生への提示は便覧に掲載することのみになっており、十分意識できるところまで浸透していない。今後は意図が理解できるように伝え、職員それぞれが意識し行動することで、徐々に学生にも伝わり、学習指針としていけるのではないかと考える。</p>						

	〈教育課程〉	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見	
教育活動	1. 編成された教育課程を教職員全体で教育理念・目的の達成に向けて一貫した教育実践・評価を行っている。	2.63	2.56	2.73			
	2. 看護学の内容、学修の到達、学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.81	2.81				
	3. 科目と単元の構成・考え方は、根拠をもち、教育理念・目的・目標と整合性がある。	2.75	2.67				
	4. 構成した科目は、養成所の特徴をあらわし看護師を養成するのに妥当である。	2.81	2.81				
	5. 看護師になるための質を維持できる履修科目であり、学生の単位履修を支援するものとなっている。	2.83	2.92				
	6. 単位認定の基準・方法は、看護師に必要な学修を認めるものとして妥当であり、他の高等教育機関と単位互換が可能である。	2.94	2.81				
	7. 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	2.50	2.50				
		〈看護実践体験の保障〉	R4評価	R5評価	R5平均		
	8. 臨地実習施設は養成所の教育目的・目標を理解し、学習支援体制を整えている	2.58	2.58	2.67			
	9. 臨地実習の学びを保障するために、実習指導者・教員の役割を明確にし、協働体制を整えている。	2.75	2.67				
	10. 対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、指導を計画的に行っている。	2.83	2.67				
11. 学生に関係する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	2.94	2.75					

	(授業内容の一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連性)	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見			
教育活動	12. 授業内容は教育課程と一貫性がある。	2.94	2.81	2.71					
	13. 授業内容は看護学としての妥当性がある。	3.00	3.00						
	14. 授業内容間の整合性、発展性が明確になっている。	2.42	2.33						
		(授業の展開過程)	R4評価	R5評価			R5平均		
	15. 授業形態は授業内容に応じて選択し、授業展開を授業計画に明示して学習支援をしている。	2.92	2.92	2.75					
	16. 学生の学習が発展するための学習支援を明確にしている	2.50	2.58						
		(評価とフィードバック)	R4評価	R5評価			R5平均		
	17. 評価計画・結果に基づいて授業を改善している。	2.75	2.67	2.67					
	18. 教育目標の達成状況を多様な評価方法で多面的に把握している。	2.42	2.58						
	19. 単位認定の評価基準・方法を示し、公平性が保たれている。	2.63	2.75						
		(学習の動機づけと支援)	R4評価	R5評価			R5平均		
	20. シラバスの提示や学習への指導は、一貫性があり学習への動機付けとなっている	2.75	2.58	2.58					
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>カリキュラム改正から2年がたち、実際に教育していく中で目標に向かった一貫した教育実践から評価へと意識する機会が少なく感じている。その結果、一貫した実践・評価や科目と単元の整合性に関しての部分が低くなっていると思われる。今後は話し合いを続けていく中で一つ一つ明確にし、職員一人一人が理解していく必要がある。評価も各科目ごと個人の采配ではなく、演習では統一した評価ができるように進めていきたい。個人で行ったカリキュラム評価も共有していく。カリキュラム改正で各施設での独自性が認められている部分が多くなったが、看護基礎教育として必要な内容をどこで抑えているのかを明確にしていく必要がある。</p> <p>看護実践の場での学びに関しては、カリキュラム改正により実質時間数としては減少している。以前より学力低下がみられている学生に安全を確保しつつ実践現場での学習を行うには多くの配慮が必要であるため、指導者との協働のみでなく、教員同士でも協働していけるように環境を整えていく必要があると思われる。また実践の場での学習内容は学生のレディネスをふまえて教員が実習担当者のみでなく、臨地実習場に明確に伝えていくことも大切となると考える。授業と実習がつながって考えられるように進めていきたい。</p> <p>看護学としての妥当性は、国家試験の合格率も高く、あると判断できる。しかし、一貫性や関連性ではここが自分の授業を考えるに精一杯になってしまい、なかなか領域を超えて考えた授業展開まで進められていない。今後は、領域間でもほかの授業とどのような関係にあるのかを明確にし、不必要な重複をなくし、必要なところが教授できているのかの確認を行っていく必要があると考える。</p> <p>学習の動機付けや授業展開では、授業内容は学生の状況に合わせて変更していくことも大切であるため、それぞれが授業開始時や開講時に動機付けを行い、授業展開予定を伝えていくようにしている。しかし、変更したシラバスを教員間で共有することまでできておらず、一貫性を持った動機づけにまで活用できていない。学生の学習が発展するように教員間での共有もできる工夫をしていきたい。</p> <p>昨年度課題となっていた実施した試験からのフィードバックができるように、試験結果を学生に公開し学習につなげてもらえるようにした。しかし、実際の学習効果までにはつながっていると実感はできていない。評価方法は、講義に関しては試験の実施と学生へのアンケート実施、教育目標に関しては学生へのアンケートと関係者会議などで実施している。その評価に基づいてそれぞれが改善していこうと努力しているが、全体につなげて評価するところまでできていない。単位認定の評価基準は明確になっている。</p>									

	〈組織体制〉	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見	
経 営 ・ 管 理 ・ 過 程	1. 管理者は教育理念・目的・教育課程、管理運営についての考え方を明示している。	2.94	2.94	2.69			
	2. 組織体制が明確であり組織職員の意思が反映できるシステムが整っている。	2.81	2.63				
	3. 教職員の構成と任用、資質向上についての考え方と対策は、教育理念・目的との整合性がある	2.69	2.50				
		〈財政基盤〉	R4評価	R5評価			R5平均
	4. 財政基盤を確保することの考え方は、教育の質向上に繋がっている。	2.81	2.56	2.44			
	5. 教職員の観点からの意見は、経営に反映できるようになっている。	2.75	2.31				
		〈施設設備の整備〉	R4評価	R5評価			R5平均
	6. 教育環境の整備計画を立案し、実施している。	2.56	2.69	2.61			
	7. 医療・看護の発展の変化に合わせて、専門職教育に必要な整備をしている。	2.69	2.63				
	8. 学生・教職員が円滑に学び、職務遂行できる施設設備を整備している。	2.63	2.50				
		〈学生生活の支援〉	R4評価	R5評価			R5平均
	9. 学生が学修を継続できる支援体制を整え、助けになっている。	2.81	2.81	2.81			
		〈養成所に関する情報提供〉	R4評価	R5評価			R5平均
	10. 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、協力を得ることに繋がっている。	2.75	2.81	2.91			
	11. 看護師養成所としての存在をアピールする広報活動を行っている。	3.00	3.00				
		〈養成所の将来構想〉	R4評価	R5評価			R5平均
12. 将来構想との整合性をもって、計画立案している	2.69	2.44	2.44				
	〈自己点検・自己評価〉	R4評価	R5評価	R5平均			
13. 自己点検・自己評価の目的を理解し、体制を整え改善に繋がるよう機能している。	2.81	2.75	2.75				
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>教育理念・目的・目標に関しては、便覧に明記し考え方を明示している。組織体制・財政基盤に対して職員の意思は確認しているが、なかなかその通りにならないため理解していても学校運営の実際とは繋がられない部分が多いと思われる。今後も意思決定機関や意思決定システムの明確な規定やシステムが周知していく必要がある。学習・教育の質の維持・向上につながるよう柔軟に再構築をしていくようにする。</p> <p>施設整備に関しては、お金も時間もかかるが、学生および教職員の活動が安全かつ快適になるように優先順位を明確にして対応していく。今後は看護学校の在り方を考えつつ、先を見越して新たな教材の購入できるように、今後の医療・看護のニーズ、学生層の変化に対応していきたい。</p>							

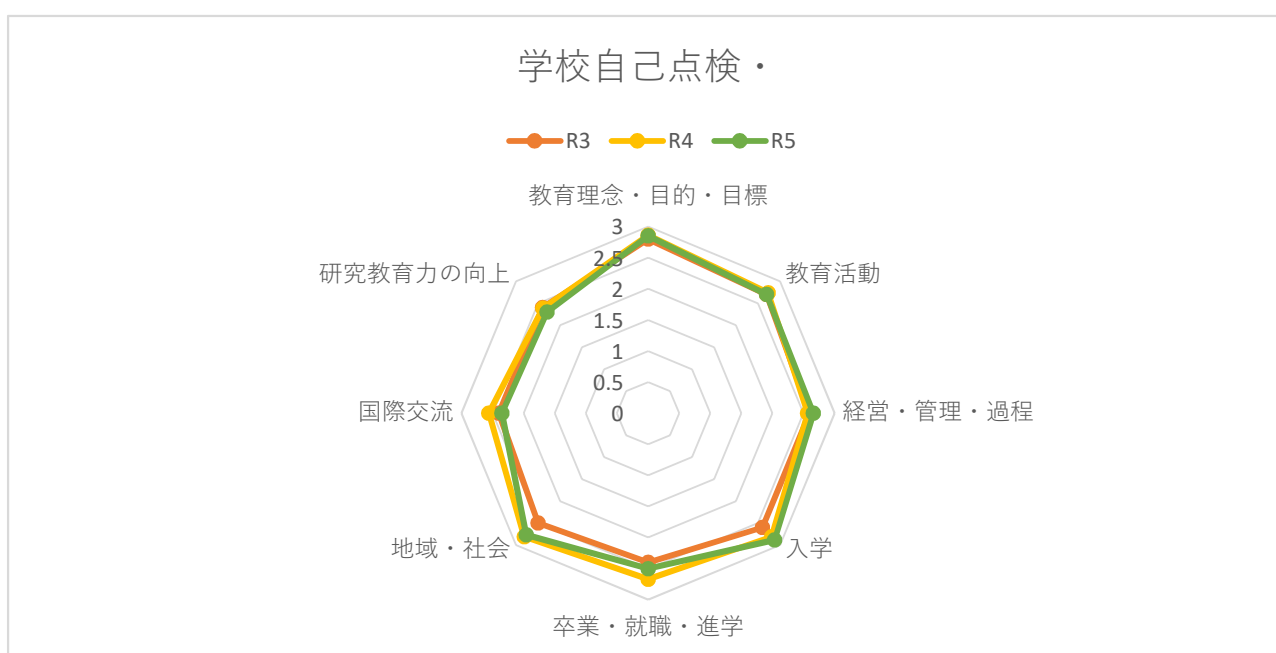
将来構成は、今年度から島田市の長期的課題のなかにも入れるようにした。今後も今まで行ってきた島田市の連絡調整委員会で行っていくとともに多くの方々に学校の現状を知ってもらおう努力を続けていく。現在の社会の流れから看護学校の在り方についてはいろいろな意見があるため、情報を収集し計画的に行っていきたい。今後は必要な情報はカリキュラム運営や授業実践にフィードバックしていくことができるよう早めに伝達していく必要がある。

項目	評価項目	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見
入学	1. 教育理念・目的との一貫性をもって入学選抜を考え、分析・検証している。	2.81	2.88	2.88		
項目	評価項目	R4評価	R5評価	R5平均		
卒業・就職・進学	1. 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	2.94	2.75	2.50		
	2. 卒業時の到達状況、就職・進学状況について分析し、教育理念・目標との整合性がある。	2.94	2.56			
	3. 卒業生の就職先との情報を把握し、問題を明確にしている。	2.63	2.56			
	4. 卒業生の活動状況を分析し、教育理念・目的・目標・授業に活用している。	2.19	2.13			
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>入学に関しては少子化もふまえて、今後も検討を続けていく。卒業時の到達に関してはアンケートを実施しているが、卒業後の成長までは十分な把握ができていない。今後は卒業後の状況に関しては、学校としてどう情報を収集しカリキュラムに活かしていくのかを考えていきたい。</p>						

項目	評価項目	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見
地域・社会	1. 社会との連携に向けて、地域社会への貢献を組織的に行っている。	2.69	2.63	2.77		
	2. 地域社会へのニーズを把握し、地域へ情報発信する手段をもっている。	2.81	2.75			
	3. 地域の特徴を把握し、養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2.94	2.94			
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>地域のニーズを把握できるように授業の中でも地域を意識して教授を始めているが、担当教科のみとなっている傾向がある。今後は地域・在宅看護論だけではなく、各領域でどのように取り入れているのかを確認し話し合っていく必要があると考える。また、地域への貢献としてボランティア委員会も立ち上げたため、今後も率先して地域と関わって生きるようにしていきたい。</p>						

項目	評価項目	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見
国際交流	1. 国際的視野を広げるための授業科目を設定し、国際的視野を広げるための環境を整えている。	2.69	2.38	2.35		
	2. 海外からの看護に就くことを希望する学生の受け入れ体制を整えている。	2.44	2.31			
<p><点検結果と今後の対策></p> <p>今年度、受験希望があったため関わった職員もいたが、職員全体での再確認にまでは至っていない。今後も希望があったときに誰でも対応できるように職員に周知していく必要がある。また、授業科目の設定は行っているが、今年度は進行の関係で国際看護に関する科目の実施がなかった。すべての科目を職員が理解できるようなアナウンスが必要である。</p>						

項目	評価項目	R4評価	R5評価	R5平均	評価	ご意見
研究教育力の向上	1. 教育の研究活動を保証し、助言・検討・支援し合う体制を整えている。	2.17	2.33	2.30		
	2. 教員が専門性を発揮できるよう科目・時間を配分し、授業準備がとれる体制を整えている。	2.42	2.25			
	3. 教育課程の実践者である教員が成長できるよう、自己研鑽・相互研鑽のシステムを整えている。	2.58	2.33			
<点検結果と今後の対策>						
<p>カリキュラム改正後2年目となり、授業時間数や演習が増え実践する時間の確保が難しいのが現状であった。教員の業務が押し合っている中でどのように研究活動が行えるような時間的・財政的・環境的介入ができるのかを改めて考えていく必要がある。また、お互いの成長のために発展的な話し合いができるよう支援していく。しかし、時間の制限があるのも現実で、個人が時間管理を行い自分で時間を作る努力をしたり、心身の健康維持ができるような状況にしていくことも必要である。それぞれが教務専用の事務にどんな仕事を依頼できるのかを考え、専任教員の役割の中に研究活動を行える時間の確保につなげられるようすすめていく。</p>						



	R3	R4	R5
教育理念・目的・目標	2.8	2.86	2.85
教育活動	2.7	2.73	2.70
経営・管理・過程	2.6	2.57	2.66
入学	2.6	2.81	2.88
卒業・就職・進学	2.4	2.67	2.50
地域・社会	2.5	2.81	2.77
国際交流	2.4	2.56	2.35
研究教育力の向上	2.4	2.39	2.30